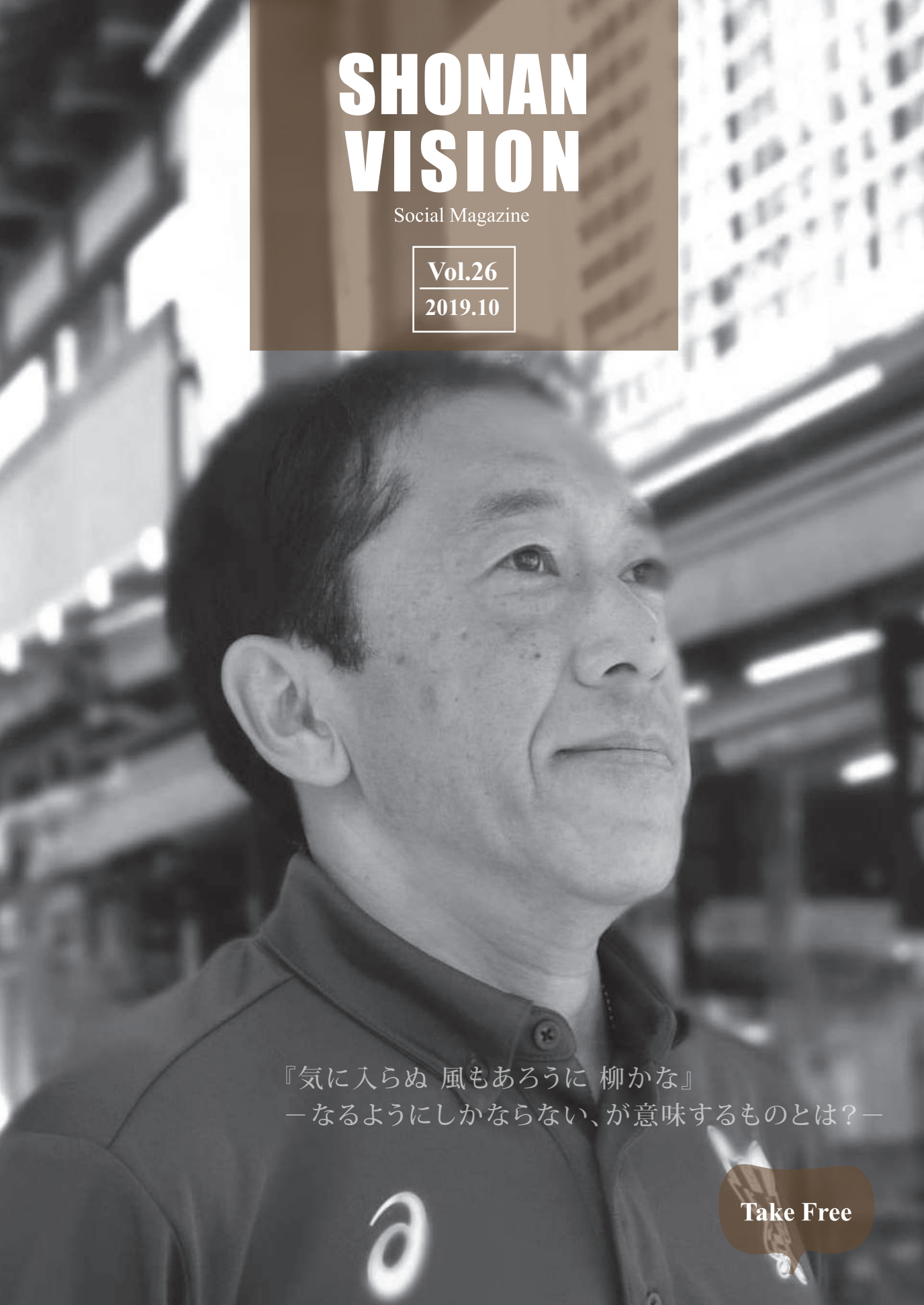
SHONAN VISION

Social Magazine

Vol.26
2019.10



『気に入らぬ 風もあろうに 柳かな』
―なるようにしかならない、が意味するものとは？―

Take Free

『気に入らぬ 風もあろうに 柳かな』
―なるようにしかならない、が意味するものとは？―
江の島観光会会長・（有）丸代商店代表取締役　二見将幸氏

文・中許竜宏　インタビューアー・片山清宏　写真・中川彩乃

片瀬江ノ島駅から海の方へ歩いていくと、神の島とも呼ばれる江の島が見える。日本三大弁財天を奉る江島神社や、岩屋洞窟、そして島のトップには展望台。その魅力ある江の島へは江の島弁天橋を渡っていく。その橋を渡ると見えてくる、江の島弁財天仲見世通り。その入り口にある青銅鳥居の横に位置する海産物の店「丸だい」。そこで毎日のように、カウンターに立ち、お客が入っていくと、人なつっこい表情を向けながら、「いらっしゃいませ！」と声をかける。なんとも心地よい。その声の主が今回の主人公。

江の島観光会会長　（有）丸代商店　5代目代表取締役
二見将幸。

２時間あまりものインタビューの中で感じたことは、彼の「揺るぎない思い」だった。「なるようにしかならない」という彼のモットーは、一見、ネガティブに受け取られがちであるが、実は、その言葉の中には物事を柔軟に捉え、新しい時代へ挑戦していくワクワクも期待もあり、あっという間の２時間だった。そんな彼の人生に迫った。

人のため、社会のため。
彼の原点は、ボーイスカウトだった。

1968年8月生まれ。江の島で磯料理を営む「丸だい」の5代目として生まれ育った。代々、二見家は長男のはずなのに、初代代次郎、２代目房次郎、３代目仙次郎。祖父が父を幸雄としたから、僕は将幸になった。「母は石原裕次郎の大ファンなので、裕次郎とつけたかったみたいだけど。」そう笑って、小さい時のことを静かに話し始めた。

「僕はおじいちゃんっ子だったんで。」父との思い出はほとんどない。当時、父は、青年会議所、商工会議所、ロータリークラブの会合に出席し忙しかったため、夜ご飯を一緒に食べた覚えがほとんどない。土日は家業が忙しいため、休みの日に、父がどこかへ連れていくことはなかった。だから、ご飯もお風呂もテレビも、祖父と一緒。「食べ物の好みが、蕎麦やうなぎなのは、祖父の影響かな。」と話す。

小学校は、湘南学園。「湘南学園ってアットホームな学校。僕の教わった先生が、翌年、妹の担任だったり。その繋がりが素晴らしいよね。」と話す。首根っこをつかまれて怒られたこともあった。習い事はボーイスカウトをやっていた。カブスカウトとして５年生から始めて、高校１年生まで。藤沢第９団。「今、振り返ると、ボーイスカウトでの経験が、今の自分の精神を作ったのかもと思う。人のために、ボランティアや奉仕の気持ちが染み付いたような気がしてるんだよね。」と話す。人のため、社会のため。商売人というよりも、社会貢献に思いがある、なんともおっとりとしたような優しいような、今の彼を創るブレない軸の原点がそこにあった。

中学は片瀬中学に進学。私立小学校から公立中学校に進学することは稀。「お手並み拝見っていう目で見られていたところもある。」湘南学園小学校では英語をすでに習っていたので、中学入ってすぐに、上履きに名前を書く時、「Futami」と英語で書いた。隣の子が「すげー、英語かけんの？」と声をかけてきて、ローマ字でスラスラと名前を書いてあげた。その後、友達も増えて楽しい時間を過ごした。「同級生には、東大に行った子もかなりやんちゃな子までいるよ。」公立の中学に進学したことによって、人の幅が広がり、どんな人とも対せるようになった。

高校は県立七里ガ浜高校へ進学。夏は、教室で海パンに着替え浜に行った。高２ぐらいから受験を意識した。この時期はちょうどバブルの初め。マスコミ関係の仕事をしたかった。当時の広告代理店は華やかで、自分から何かを発信できることをしたかった。中でも放送作家に興味を持った。作家が番組を構成。その人達を使う制作側も面白そうで、それをまとめる広告代理店にも魅力を感じた。だから、浪人して、早稲田に入りマスコミ関係に進めたらとぼんやりとした目標を持っていた。しかし、立教大学経済学部経営学科に現役合格。同級生は「一緒に遊んでいたのに。いつの間に勉強してたの？」と言った。合格通知は郵送で送られてきたが、両親は信じられないと言って、池袋の立教大学まで見に行ったらしい。

大学入学は87年。バブル初期。正直、勉強をした記憶がない。ちょうど池袋駅を降りて、学校までの道に雀荘があった。たまたま大学のガイダンスで一緒になった仲間と麻雀ばかりした。入り口の伝言板に「二見へ。中で待ってる。」それを見て入っていくそんな毎日。バイトは、同級生を連れて家業の店の手伝いや中学生の家庭教師もやった。就職活動を始めると、マスコミ志望から将来のことを現実的に考えるにつれてサービス業界への興味が強くなり百貨店志望になった。「ベタな動機だけど、百貨店が好きだった。」と語る。小さい頃、祖父によく百貨店に連れて行ってもらった。おもちゃ売場、書店、ごはんを食べて、屋上へ。下から上に上がるにつれて楽しさが増えていく。「営業はピンとこなかったな。営業で取引先の会社に売り込んで買ってもらう。それよりも、こちらで待っていてお客さんが来てくれて、そのお客さんに売る方が楽じゃない？」さらりと言った。しかし、お客様に喜んでもらい、お客様と接することの面白さを感じ始めていた。

ドラマのようなエキサイティングな毎日。だから、今日やれることは今日やる。

横浜高島屋に就職。洋食器売場に配属。商品の知識は必要で必死に勉強した。最初の数週間は売り場。その後は、大黒埠頭の配送センターで包装作業を担当した。出社して、店が開店するとすぐにバスにのり、大黒埠頭へ行き包装作業。1日600個～1000個。閉店時間に横浜に戻る。そんな毎日を4年ぐらい過ごした。自分でフォーマットを作った。簡単なA41枚。一件ごとに、必要数、日付など台車に貼って、商品を動かした。

あえて、「辛い仕事ですよね？」と聞いてみた。「言われた仕事をちゃんとこなすには、どうすれば効率よく回せるかばかり考えていたよ。つらいとは思わず、それが楽しかったなぁ。」パートさん、アルバイトもいて、その人達の手が空かないように、パンクしないように、気遣いながらやっていた。休みにも手伝って、お客様の都合をギリギリまで対応した。「大桟橋から船で15時に出航するから14時半までに持ってきて！」ありとあらゆる状況が日常茶飯事。引出物で言えば、披露宴当日の朝、「のし紙の名前が違うんだけど。」包装をはがし、のし紙をとって付け直し、包装し直す。「当時のトレンディドラマってさぁ、最後の５分ぐらいでBGMが流れる時間があるでしょ。次に何かが起きる前兆っていう、あの瞬間。あの、何が起こるかわからないような毎日。売場にクレームが入るのは日常茶飯事。でもね、お祝いなんだから、割れているってなんだか嫌でしょ。とにかくお詫びに行っちゃおう！って。高島屋の人がすぐにきてくれた、って思ってもらえるし。」となんだか楽しそうに語る。だから、今でも意識していること。「毎日、何かしら起こる。明日できる保証はない。明日やる予定の仕事が明日できないかもしれない。だから、今日やれることは今日やる。今日、帰りがちょっと遅くなるかもしれないけど、今日できちゃうなってことは、今日やる！それが大事。」と力強く語った。

洋食器売場に9年いた。部署異動をせず、主任、係長に昇進。9年間の中での挫折経験は？と聞いたが、「挫折とか、そういう風に考えないようにしていた。」と言う。「天災」という落語。雨宿りもできない道で夕立が降ってきてもどうしようもない。それは、誰のせいでもない。天災。いろんなことがあるけど、天災ならしょうがない。腹も立たないでしょ。「僕は楽な生き方、楽な方法を選んでいるからかもしれないなぁ。もうちょっと頑張ればいけるのに、必死になれば・・・をしていない。だからその分、挫折を感じることがなかったんじゃないかな。」そう話す彼は、少年のような表情で、さらりと笑った。

家業、丸だいへ。そして、江の島発展のため。

「丸だい」に戻るきっかけは不意に訪れた。名古屋高島屋を開業することになり、「食器売り場の責任者としていってくれないか？」と言われた。立ち上げから関われるのは魅力だったが、次の日に断った。翌年退社。家業を継ぐことに覚悟ができ、３２歳で戻る。継ぐことにプレッシャーはなかった。「常にそうだけど、あんまり構えても。なるようにしかならないから。」

最初のポジションは、会社の取締役。父と商売のことを話す機会は少なかったが「あいつはボランティアの意味をわかっていない。」とよく言っていた。お金にならないからこそ、ボランティアの精神が大切なんだ、となんとなく考えていた。だから父と同じように藤沢青年会議所にも入会。まちづくりや社会貢献といった活動にも熱心に取り組んだ。「僕はお客さんを大切にしたい。たまたま観光地にあるけど、観光客向けのお店ではなく、永く、地元の人にも愛されるお店になりたい。しらすも干しわかめも本物を売りたい！」そう言って、腰越までしらすを仕入れに10分退室された。

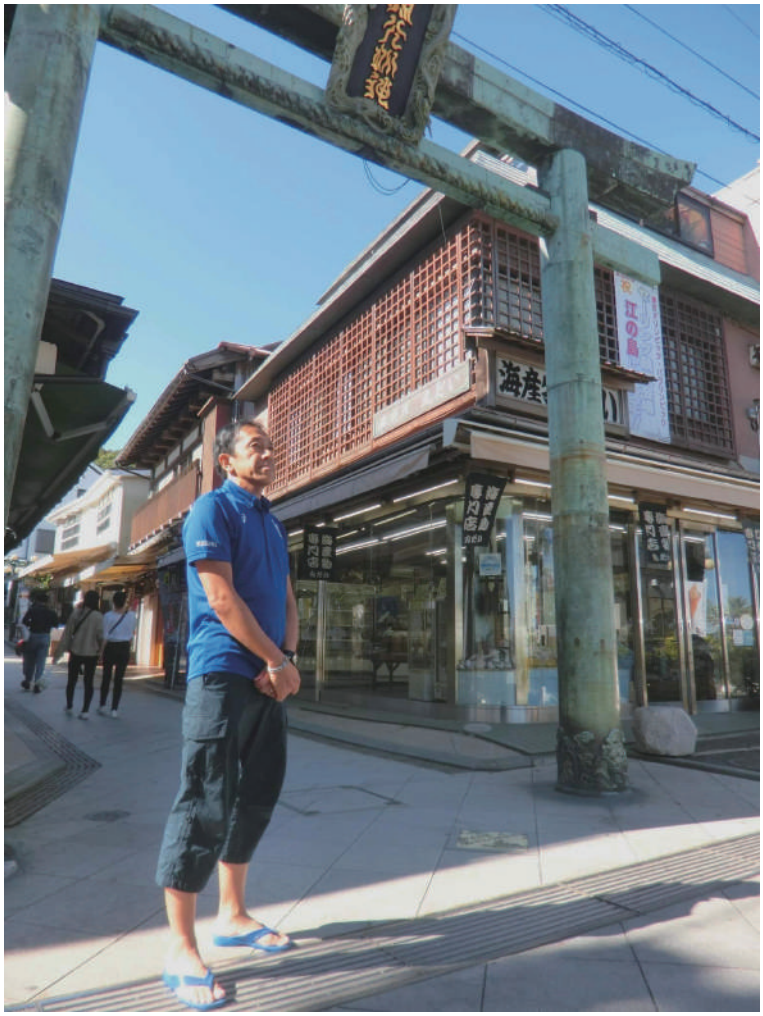
江の島観光会の会長に2018年就任。恵比寿屋社長が1つ下。岩本楼社長は同級生。消防団も一緒にやってきた仲間で、多い時期には1週間に5回ぐらい会って語る。「自分のところだけ儲かればいいわけではないじゃない。江の島に人が来なくては。」と江の島発展をみんなで考える。父が観光協会会長になってからは、受け身じゃない攻めの観光を行った。江の島の魅力を発信する1つが、始まった当初から関わっている「湘南の宝石」。冬の一大イベントに成長した。夏だけじゃない湘南。年間を通して人が来るようになったのは、みんなが頑張った結果。「お客さんが来なくなってからやっても意味がない。来てくれている時にやらないと。」

オリンピックに対してみんなで話しているのは、「規制などの影響でお客さんが来ないかもしれないことへの補償を求めるっていうのはやめない？」と言っている。来年度のオリンピックに向けて、セーリングで来日した選手が、ヨットハーバーだけではなく、いかに商店街まで来てもらえるかを考え、英語のマップを作成した。『セーラーを応援してますよ!』と店先に掲示。「商売で儲けよう」ではなく、選手とコミュニケーションすることを楽しみたい。江の島は、百貨店と通じるものがあると言う。「老弱男女が来やすい観光地でありたい。一番上に集客効果がある展望台がある。途中にはお店がある。ちゃんと江の島のことを知っていて、誰に何を聞かれても答えられるように、オール江の島で取り組んで行きたい。」「昨日より今日。今日より明日に、ちょっとでも良い方向に変えることが大切だね。」そう語る声は少し熱くなっていた。

最後に聞いた。自分を一言で表すなら。「落語の世界のように、ひょうひょうとやっていければと思う。大きな流れには逆らわず。江戸時代の川柳に『気にいらぬ　風もあろうに柳かな』とある。柳。風に逆らわないということ。いろんな時代、環境の変化、経済の情勢、いろんな風があるけど、文句ばっかり言ってもしょうがないし、逆らってもしょうがないでしょ。その中で、どううまく変わっていけるか。漢字でいうなら、"楽"。"楽"っていうか、楽しい。何が来ても、動じないし変化についていける。自信があるわけではないけど・・・。」と照れ臭そうにした。

人生では、いろんな風にぶち当たる。強い風や冷たい風、雨や雪が混じることもある。それで、心が折れてしまうこともある。だから折れないように真っ向からぶつかってみると、余計に風当たりが強くなるときもある。吹っ飛ばされることもある。でも、柳の枝は、どんな風に吹かれようとも、それが自在。抵抗せず、素直に風に揺れ、そこに立っている。きっと、彼の人生は、「なるようにしかならない」のではなく、柳の枝のように風に身を委ねているのだと感じる。どんな風が吹こうとも揺るぎない「折れない心」「折れない自分」があるのだろう。彼の中に、柳のように、しなやかでやわらかく、なかなか折れない、人としての器の大きさを見た。風や波には逆らわず身を任せるという感覚は、生まれた時から海を見て育ち、休日にはサーフィンも楽しむ暮らしの中で培われたものなのかもしれない。

生前は店頭に座っていた父。「みんなはここを関所だと言っていたよ。」と笑う。お店に立つのは、みんながお店に寄って「江の島に来て二見さんの顔を見たら、ホッとする。」と言われるから。「人の繋がりって本当に大切。」そして、彼は、今日もいつもと変わらず、笑顔でカウンターに立っている。（了）



深海への挑戦、探索の歴史
相模湾の深海をのぞこう!学ぼう!

2019年8月4日（日）13:00〜15:00
みんなのSea-Side（株式会社Be-Side内）

講師の山田海人先生をはじめ、暑い中ご参加頂きましたみなさま、本当にありがとうございました!
みんなで深海映像をみたり、海からのおくりもの"テングサ"をつかった手作りおやつをいただいたりと少しでも深海を身近に感じて頂けたら幸いです。
湘南ビジョン大学では、私達の身近にある"海の豊かさを守る"を合言葉に海にちなんだ毎週様々な講座を開講しております。ご興味あるものがございましたら是非お問い合わせください♪　（みなつ）

みんなで弾いて歌って楽しく学ぼう!
江の島でだれでもウクレレ体験

2019年8月11日（日）13:30〜16:30
国家公務員共済ホテル「ＫＫＲ江ノ島ニュー向洋」多目的ホール

初めは恐る恐るウクレレに触れていた方も、とみ〜斉藤（斉藤 富彦 (Tomihiko Saito)先生から弾き方を教えてもらいどんどん上達!誕生日の歌やハワイアン曲などをいっしよに合奏し唄いながら和やかな雰囲気で終えることができました。
江の島東海岸での合奏もとても楽しかったですね。ご指導いただいた善行アロハウクレレサークルのみなさま、ありがとうございました。　（斉藤）

真夏の夜、幻想的な海でゴルフをしよう　Night Golf in 由比ガ浜海水浴場

2019年8月17日（土）19:00〜21:30　　由比ガ浜海水浴場

由比ガ浜海水浴場で、"海の学び場"『湘南VISION大学』授業、「Night Golf in 由比ガ浜〜真夏の夜、幻想的な海でゴルフをしよう!」を開催しました!
夜のビーチは星も月もきれいで、心地よい風が吹く絶好のコンディション。LEDライトが内蔵されたゴルフボールが夜空に舞い、的に当たると大きなかぼちゃ（笑）がピカピカ光り、スペイシャルゲームではTシャツやバックなどの豪華賞品も当たりました!女性もお子さんもゴルフ初心者の方も、GDOのスタッフの方が丁寧に教えてくれて大満足。同じ会場の海の家パパイヤでは Def TechのMicroさんのMusic Liveが開催され、こちらも大盛況!200人以上の参加者が集まった楽しいイベントとなりました。　（片山）

大人＆子ども一緒に人型ロボットを動かそう！
海テーマでプログラミング創作

2019年8月24日（土）13時30分～16時30分　BE-SPACE kugenuma

鵠沼海岸駅商店街BE－SPACEで、海の学び場「湘南VISION大学」授業「海テーマでプログラミング創作体験～大人&子ども一緒に人型ロボットを動かそう！～」を開催しました。

大変盛り上がり楽しくも充実した授業ができました。親子5組。支援者兼先生としてソフト技術者2名。ご参加いただいたお父さんお母さん、お子さんたち、ありがとうございました。

子供たちは習得が早く、次々に創作にチャレンジ。スクラッチはMIT研究所の無料ソフト。ご家庭や職場、学校で使って下さいね。ロボホンのスクラッチパックは法人向けなのでレンタル中です。日本も世界に負けない次世代の子供たちが育っていくことを願っています。（斉藤）

じゅんかん育ち野菜×おとう飯大使　誰でも超簡単！時短・料理教室

2019年9月7日（土）14:00～16:00　「湘南T-SITE」3号館　Panasonic KURA_THINK『クラシンク』

湘南T-SITEパナソニック・クラシンクで開催した「湘南VISION大学」授業「誰でも超簡単！時短・料理教室」、大成功でした！

今回は、下水道由来の肥料を使って神奈川県内で育てた環境に優しい「じゅんかん育ち」野菜を食材に、①野菜の冷製パスタ、②バターナッツカボチャのポタージュ、③クックケールとパルメザンチーズサラダをみんなで料理。

講師は、内閣府男女共同参画局おとう飯（おとうはん）大使で1,000のレシピを持つ料理人・よしもと芸人「イシバシハザマ」の石橋　尊久　(Takahisa Ishibashi)さん。今回も大爆笑ありの楽しい料理教室で子供たちも大喜びでした！

東北大学特任教授の加藤先生から「BISTRO（ビストロ）下水道」のレクチャーもありとっても勉強になりました。クラシンクの根田店長、関係者の皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました！（片山）

Information

Let's have fun!
配布・設置していただける場所を募集しています

誰でも参加できる"海の学び場"『湘南VISION大学』授業

美しい湘南の海を楽しもう!

葉山 de クルージング 2019

11.09
Sat

日本ヨット発祥の地、葉山でサンセットタイムクルージングしませんか?50名乗りのボートをチャーターして、元アメリカズカップニッポンチャレンジクルーでプロセーラーの伊藝徳雄(いげい　のりお)氏に、2020年に開催される東京オリンピックのセーリング競技のレース会場でもある葉山の海を案内していただきます。

日時：2019年11月9日(土) 15:00〜19:00
場所：葉山マリーナ2階待合所(葉山町堀内50-2)
ナビゲーター：伊藝徳雄(いげいのりお)氏〔プロセーラー〕
日本セーリング協会キールボート強化委員会　委員、日本ヨットマッチレース協会会長、セイラーズフォーザシーアンバサダー、葉山港町つくり協議会委員、有限会社 伊藝 代表取締役社長
ゲスト:河辺匡太氏〔Kina Village(カイナビレッジ)村長〕
参加費：大人:2,000円 / 学生:1,000円 / 未就学児:無料

申し込み・お問い合わせ：
Facebookイベントページの参加ボタンを押すか、info@shonan-vision.orgまでご連絡ください。
延期又は中止の場合は、Facebookイベントページ上又は湘南ビジョン研究所HPでご連絡します。
FB：@shonanvision
HP：http://shonan-vision.org/

藤沢スマイル歯科医院

AD

いたくない！小児歯科から歯周病治療。入れ歯治療まで

スタッフ募集　笑顔あふれる新しい職場
【募集要項】若干名
【交通費】全額支給(車通勤OK!)
【待遇充実!食事代補助】
【設立】2008年
【科】一般、小児、矯正、審美、予防、ホワイトニング、歯周病治療、顎関節治療
【休】完全週休2日制(水、祝、他1日)※祝日週の振替診療なし
【就業時間】(月、火、木、金)10:00〜20:00
(土、日)10:00〜18:00　各日休憩90分
【他】夏季5日　冬季5日

トレアージュ白旗2F医療モール(小田急江ノ島線　藤沢本町から徒歩5分)
無料大型駐車場あり
HP　http://www.fujisawa-smileshika.jp

SHONAN VISION
Social Magazine
Vol.26
2019.10

PUBLISHER:片山清宏
EDITOR IN CHIEF:片山清宏
ART DIRECTOR:大戸千尋
EDITORIAL STAFF:片山清宏　中許竜宏
COVER PHOTO:中川彩乃

web http://shonan-vision.org/
@shonanvision
info@shonan-vision.org

SHONAN VISION vol.26 | 2019年10月号　2019年10月25日発行　発行:NPO法人湘南ビジョン研究所　〒251-0027神奈川県藤沢市鵠沼桜が岡3-9-29　shonan-vision.org